

リニア中央新幹線の開通を見据えた基盤整備

1. はじめに

1) 岐阜県について

「飛山濃水」という言葉に象徴される本県は、北部の飛騨地方は北アルプスに代表される3,000m級の山々が連なる山岳地帯が広がり、南部の美濃地方は木曾三川が流れ、海拔0m地帯を含む水郷地帯となっており、起伏に富んだ地形を有しています。日本列島のほぼ中央に位置し、五街道の一つである中山道をはじめとし、古来より交通の要所として東西南北の往來を支えてきました。

2) リニア中央新幹線について

リニア中央新幹線は、時速500kmで走行する超電導リニアによって、東京都から甲府市付近、赤石山脈（南アルプス）中南部、名古屋市付近、奈良市付近を経由し大阪市を結ぼうとするもので、計画が実現すれば東京と大阪間が約1時間で結ばれます。現在、品川～名古屋間について、2027年の開通を目指して鋭意工事が進められています。

岐阜県については、中津川市坂本地区に、地上駅の（仮称）リニア岐阜県駅や（仮称）中部総合車両基地の建設が計画されており、岐阜県内についても、これまでに延長の約9割にあたる工事が発注されるなど、開業に向けた取組みが進められています。

そのため、岐阜県では、平成26年3月に、リニア開業を見据えた地域づくりの方向性とその実現に向けた重点施策を、「リニア中央新幹線活用戦略」としてまとめました。

同戦略では、「観光振興・まちづくり」「産業振

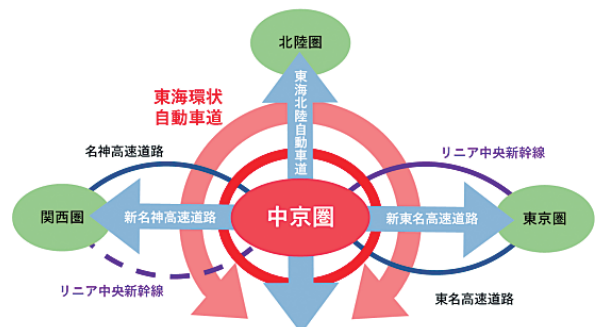
興」「基盤整備」の3つの分野ごとに取り組むべき施策を定めており、「基盤整備」においては、（仮称）リニア岐阜県駅へのアクセス道路など交通ネットワークの整備や駅周辺整備などについて、重点的に取組みを進めています。

2. 交通ネットワークの整備

1) 広域交通ネットワーク

本県では、リニア中央新幹線開業の効果を県内全域に最大限波及させるため、東海環状自動車道の西回り区間の整備、東回り区間の4車線化および東海北陸自動車道の全線4車線化等、高規格道路の整備促進に取り組んでいます。

東海環状自動車道は、東京圏と関西圏、中京圏と北陸圏をつなぐ日本の真ん中のロータリーとして機能し、本自動車道を含め県内における高規格道路の完成により、リニア中央新幹線と一体となって日本の経済や観光、産業の発展、さらには大規模災害時における代替路の確保など、非常に大きな効果が期待されます。



日本の真ん中のロータリー図



岐阜県知事 古田 肇

2) 周辺交通ネットワーク

本県では、(仮称)リニア岐阜県駅へのアクセス道路として、濃飛横断自動車道(中津川工区)の整備を進めています。

濃飛横断自動車道は、中津川市から下呂市を經由して、郡上市を結ぶ延長約80kmの高規格道路として計画されています。

そのうち、中津川市の中央自動車道～木曾川間の約5kmを南北軸のアクセス機能を形成するリニア関連工区として位置づけ、平成27年に都市計画決定しました。

現在、JR東海など関係機関と協議しつつ、用地取得と工事を進めています。

その他、東西軸のアクセス機能を強化する、東濃東部都市間連絡道路や国道19号瑞浪恵那道路の整備も進められ、駅周辺の交通ネットワーク強化により、観光、産業の活性化、地域防災力の向上などの効果が期待されます。



濃飛横断自動車道(中津川工区)完成予想図

3. リニア新駅周辺整備について

リニア新駅周辺整備に向けては、平成29年度から駅周辺の土地区画整理事業が開始され、令和元年度からは、駅周辺の空間デザイン等の検討が進められています。

引き続き、「清流の国ぎふ」の東の玄関口に相応しいリニア新駅及び周辺エリアデザイン、リニア新駅とその他の拠点間を結ぶ二次交通のあり方等について検討を進めていきます。



(仮称)リニア岐阜県駅建設予定地

4. おわりに

本県では、リニア中央新幹線の開業の効果を県内全域に波及させるため、国、市と一体となって基盤整備を引き続き進めていきます。

最後に、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を祈念するとともに、本県には、ユネスコ遺産の白川郷などの観光資源や、飛騨牛などのブランド食材が多数ありますので、終息した際には、是非本県にお越しいただくことをお願いして、巻頭のご挨拶とさせていただきます。